

令和8年度 都市ブランド創造局X方針について

■ 局区X方針とは

(概要)

局長・区長等を中心に局・区の経営的課題を自己点検し、変革課題とその解決に向け当該年度の取組事項を定めたもの。

(目的)

- ・局長級職員のリーダーシップ発揮による自律的な変革の推進
- ・局内職員への変革マインドの意識づけ
- ・外部公表による市政変革に関する市民への理解浸透と検討過程の透明性の確保

なお、取組みの進捗によって、抽象的な課題がより具体化した場合等で、課題の追加・変更が必要となれば、進捗等の公表にあわせて、適宜X方針を修正する。

■ 都市ブランド創造局X方針について

(1) 課題数 全2件

課題領域	Aレベル	Bレベル	Cレベル
課題数	—	1件	1件
政策分野	—	文化	文化・観光・ MICE・スポーツ

Aレベル : 行政サービスにおける現場の改善等にかかる課題

B・Cレベル : 政策的な変革課題 (Cはより広域、将来を見据え、全庁横断的な視点を要する等)

(2) 主な課題・取組内容等

・課題B 政策連携団体のあり方(芸術文化振興財団の体制強化)(資料1のP3)

○芸術文化振興財団は、組織体制が弱く、市の財政的関与の割合も高い。

団体の自立性を高め、文化芸術事業をより持続可能なものとするためには、運営体制を強化する必要がある。

○そのため、R8年度については、以下の取組みを行う。

- ・外部専門家の伴走支援による文化庁事業などを活用した、運営体制強化に向けた中長期計画(組織変革プラン)の策定。

・課題C 持続可能な施設のあり方（資料1のP4）

○施設の老朽化により、管理費用や改修費用の増加が見込まれる中、これまでの文化・観光・MICE・スポーツの分野ごとの管理から、利用者ニーズの変化に即した魅力ある施設づくりに向け、施設のポテンシャルを最大限に引き出す持続可能な施設運営や安定的な事業実施が求められている。

○そのため、R8年度については、以下の取組みを行う。

- ・利用者目線を踏まえた新たな施設分類の局内横断的な検討。
- ・ホール系施設の利用料金制導入に向けた、施設の利用状況や興行誘致の実態調査。
- ・ホール系施設のあり方および、老朽化対策・大規模改修計画の順次策定。
- ・直営ミュージアムの付加価値最大化のための、民間活力導入に向けた具体的な検討。
- ・JR小倉駅新幹線口におけるMICE施設のあり方に関する、関係局と連携した方針案の検討。
- ・令和7年度の調査結果を踏まえた、皿倉山ケーブルカー・スロープカーの最適な移送手段の方向性整理。
- ・公共施設マネジメント実行計画の見直し過程における、市内全域のスポーツ施設のあり方に関する利用者目線を踏まえた検討。